OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳 第55号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1986, 55, p. 87-90
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90669
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

彙報

（記念会）

事業報告

。懐徳堂展開催

昭和六十一年三月十一日より四月十七日まで、大阪市立博物館特別展「懐徳堂―近世大阪の学校」が開催された。同展は大阪市立博物館、財団法人懐徳堂記念会ならびに懐徳堂・友の会が主催、大阪大学が後援した。期間中の入館者数は一一五一五人であった。

。昭和六十一年春季講座

大阪大学文学部ならびに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に、五月二十六日（月）より三十一日（土）まで開催。月～金は午後六時半、土は午後二時半より、各日二時間の講演が行なわれた。日本学の諸相を新しい視点から眺めたもので、各日共、多くの聴講者を集め、大変好評であった。また、最終日は二人の留学生による講演という新しい試みもなされた。

〈日本学の新しい地平〉

日本文化起源論と考古学	大阪大学　都出比呂志
篤胤論―宣長的日本像の再検討―	大阪大学　子安　宣邦
遊びと日本社会	大阪大学　井上　俊
江戸時代兵学と現代	神戸大学　野口　武彦
龍宮童子考―異人論の視座―	大阪大学　小松　和彦
外国人による日本語への視座	大阪大学留学生
	マラシー・セーンニコーン
	劉　建華

。昭和六十一年秋季講座

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。十月二十日（月）より二十五日（土）まで同センターにて開催された。統一テーマとして初めて西洋学を取り上げた。時代・対象が広範囲にわたっていたため、連日通しの聴講者はいつもより少なかったが、半面、好みの一日だけを指定した人が多く、それだけに真摯な聴講風景が見られた。

〈西洋の歴史と文化〉

トロイア戦争とその原因	大阪大学　松本　仁助
中世末期の宗教劇	大阪大学　江川　温
ジョン・ロックの寛容論について	大阪大学　塚崎　智
フランスの歴史と文学―古典主義時代を中心に―	大阪大学　赤木　昭三
ドビュッシーと海	大阪大学　谷村　晃
ドイツの統一と明治維新	大阪大学　岡部　健彦

役員動静

。昭和六十一年二月二十日、本間道雄幹事退任。後任として梅田治住友銀行秘書室長、二月二十一日付で幹事就任。

。昭和六十一年三月三十一日、黒田俊雄理事、佐野喬幹事退

任。

。昭和六十一年四月一日、熊谷信昭大阪大学総長、当津武彦大阪大学文学部長、理事に就任。黒田俊雄、子安宣邦、山村雄一の三氏、評議員に就任。上中国夫大阪大学文学部事務長、幹事に就任。

。森三樹三郎評議員、昭和六十一年八月二十九日逝去。

会務報告

。昭和六十一年四月十八日、懐徳堂記念会理事会評議員会を住友銀行本店会議室にて開催。堀田庄三理事長の司会のもと、次の案件について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認された。

昭和六十年度事業報告並びに決算について

役員人事について（理事二名の交替、評議員三名の新任、幹事二名の交替について）

昭和六十一年度事業計画並びに予算案について

なお、出席は堀田庄三、上野淳一、黒田俊雄、当津武彦、弘世現、松下幸之助（代理）、宮本又次、片山良展、加地伸行、子安宣邦、信多純一、脇田修、上中国夫、梅田治の計十四名であった。

（友の会）

事業報告

。懐徳堂展開催

昭和六十一年三月十一日より四月十七日まで、大阪市立博物館で開催された「懐徳堂―近世大阪の学校」展を、同館ならびに財団法人懐徳堂記念会と共に主催。開幕に先立ち、三月十日、友の会主催の記念祝賀会が行なわれ、堀田庄三記念会理事長、弘世現友の会会長等約七十名の出席があった。

。懐徳忌（第三回）

昭和六十一年三月三十日、誓願寺（大阪市南区上本町）にて開催。午後二時より本堂で山中昌弘住職によって法要が営まれ、弘世会長代理の大村元宥評議員が代表焼香を行なった。三時より講演。「展覧会から見た懐徳堂」大阪市立博物館・上田穣氏。二十五名参加。

。「懐徳堂・友の会だより」

第九号は昭和六十一年一月、第十号（特別号）は同二月、第十一号は同四月、第十二号は同九月に発行。

。懐徳堂古典講座（（古典を読む会）

昭和六十一年には次の各コースが好文倶楽部会議室（大阪市北区梅田）を会場として開催された。毎回、午後六時より七時半まで。受講料は各コース各期毎に三千円（会員外四千円）。

「中国文化（漢文入門）」四月七日・同十四日・同二十一日・同二十八日・五月十二日・同十九日。講師は加地伸行・岸田知子・湯浅邦弘の三氏。聴講者九十名。

「孔子と論語」（前期）六月二日・七月七日・八月四日・九月一日・十月六日。（後期）十一月四日・十二月一日。（引き続き六十二年一月五日・二月二日・三月二日に実施の予

定。）講師は加地伸行氏と岸田知子氏。聴講者、前期は六十名、後期は四十五名。

「江戸の思想を読む―仁斎と徂徠」（前期）六月四日・七月二日・八月六日・九月三日・十月一日。（後期）十一月五日・十二月三日。（引き続き六十二年一月七日・二月四日・三月四日に実施の予定。）講師は子安宣邦氏と藤本雅彦氏。聴講者、前期は二十六名、後期は二十一名。

「唐詩の話」六月九日・七月十四日・八月十一日・九月八日・十月十三日。「宋詞の話」十一月十日・十二月八日。（引き続き六十二年一月十二日・二月九日・三月九日に実施の予定。）いずれも講師は黒川洋一氏（八月十一日のみ山内春夫氏）。聴講者、「唐詩」は五十八名、「宋詞」は四十八名。

「十八史略」（前期）六月十六日・七月二十一日・八月十八日・九月十六日・十月二十日。（後期）十一月十七日・十二月十五日。（引き続き六十二年一月十九日・二月十六日・三月十六日に実施の予定。）講師、前期は加地伸行氏と湯浅邦弘氏。後期は岸田知子氏と塩出雅氏。聴講者、前期は六十三名、後期は四十七名。

「釈迦の伝記―太子瑞応本起経」（前期）六月二十三日・七月二十八日・八月二十五日・九月二十二日・十月二十七日。（後期）十一月二十五日・十二月二十二日。（引き続き六十二年一月二十六日・二月二十三日・三月二十三日に実施の予定）。講師は荒牧典俊氏。聴講者、前期三十六名、後期は十七名。

。資料収集

逆瀬家旧蔵近世学芸家筆跡　計三十八件五十九点。

中井蕉園筆「織錦体新様雑詩屏風」「貼交屏風」計二点。

。見学会

第五回、昭和六十一年三月二十二日、午後一時より四時半まで、大阪市立博物館において「懐徳堂展」を見学。二時より同館講堂で記念講演「大阪の学問復興と懐徳堂」（講師は梅溪昇氏）を聴講。三時半より上田穣氏の解説で列品観覧。参加四十三名。

第六回、十一月二十三日、午後一時より五時まで、夕陽丘から浮瀬、愛染堂、茶臼山から阿倍野橋方面を歴史散歩。講師は矢内昭氏。参加三十三名。

。遺跡保存事業

誓願寺墓地内の中井懋庵、中井竹山、中井履軒の墓碑修復着工。なお、この事業実施に際しての募金に、法人・個人会員有志の協力があった。

役員動静

。昭和六十一年四月一日、黒田俊雄副会長（運営委員長を兼ねる）退任に伴ない、当津武彦氏、副会長（同）に就任。高岡研一協議員退任に伴ない、稲野治兵衛氏、協議員に就任。佐野喬運営委員退任に伴ない、上中国夫氏、運営委員に就任。

。五月一日、茅野良男協議員退任に伴ない、徳永恂氏、協議員に就任。

。八月一日、石井久夫協議員退任に伴ない、十文字孝夫氏、協議員に就任。

。九月一日、倉林育四郎協議員退任に伴ない、梅本純正氏、協議員に就任。

会務報告

。三月十日、運営委員会を今橋クラブ会議室にて開催。

。四月十八日、協議会・監事会を住友銀行本店会議室で開催。弘世会長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。

役員人事について（「役員の選任方法についての申し合せ」について、及び役員の改選案について）

昭和六十年度事業報告並びに決算について

昭和六十一年度事業計画並びに予算案について

新収資料の報告と大阪大学への寄贈について

なお、出席は弘世現会長、黒田俊雄前副会長、当津武彦新副会長のほか、上野淳一、大久保昌一、熊谷信昭、鈴木敬、宮木又次、山下俊彦（代理）の協議員九名、川勝堅二（代理）、小松康（代理）の監事二名の計十一名。運営委員七名および堀田庄三懐徳堂記念会理事長が陪席した。（岸田記）

昭和六十一年十二月二十五日発行

懐徳　第五五号

編集発行　560豊中市待兼山町一―一　大阪大学文学部内　懐徳堂記念会　編集責任者・当津武彦

印刷　600京都市下京区中堂寺鍵田町二　株式会社図書印刷　同朋舎